

電気通信大学 平成18年度シラバス

授業科目名	王朝物語の精神史		
英文授業科目名	The Spiritual History of Heian-Monogatari		
開講年度	2006年度	開講年次	3、4年次
開講学期	5、7学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-上級科目-上級講義		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	島内 景二		
居室	東1-815		

公開E-Mail	授業関連Webページ
shimauch@bunka.uec.ac.jp	

<p>【主題および達成目標】</p> <p>平安時代に書かれた『源氏物語』や『伊勢物語』。その大昔の物語は、鎌倉時代・室町時代・江戸時代・明治時代の日本文化の創造に対して、大きな役割を果たし続けてきた。その生命力の秘密は、どこにあるのだろうか。</p> <p>日本を代表する文化人たちは、皆、『源氏物語』や『伊勢物語』などの「古典」を学び、古典を乗り越えて、自分自身の「現在＝近代」を発見したのだった。</p> <p>ところが大正時代以降は、「現代語訳」の発明によって、「古典」は永遠に古典となってしまう、現代人から遠のいてしまった。その果てに、漫画本の安易な大流行がある。</p> <p>学生諸君には、「生きた古典」の不滅の価値と、それを生かし続ける努力の必要性とを、是非ともわかってもらいたい。それは、文科系の人間だけの問題ではない。科学の古典を現代人がどう読むべきかに関しても、諸君は考えるヒントを獲得できるだろう。</p>
--

<p>【前もって履修しておくべき科目】</p> <p>特に、なし。</p>
--

電気通信大学 平成18年度シラバス

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

特に、なし。

ただし、「文学A」「文学B」を受講しておけば、より楽しく、より深く、学習できるに違いない。

【教科書等】

教科書は、使用しない。プリントを配布する。

【授業内容とその進め方】

次のような講義内容を、計画している。それぞれ、1～2回。

- ・古文の解釈は、解釈者の自由である。
- ・古典の愉しさは、「挿絵」にある。
- ・古典を原文で読むことの大切さ。
- ・古典を題材にした現代小説を読む。
- ・明治の文語訳・源氏物語。
- ・大正の口語訳・源氏物語（与謝野晶子）。
- ・昭和の口語訳・源氏物語（円地文子）
- ・北村季吟の『源氏物語湖月抄』で読む醍醐味。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

学期末の論述式試験の成績を最重視する。ただし、学期途中に小レポートを課す。この小レポートを未提出であれば、試験の成績からワンランク下げる。また、時々、出席を取る。

講義内容を理解しているかどうか、批判的に考えながら受講できたか、自分自身の見解を試験答案に盛り込めたか、それらを勘案して最終成績を決定する。古文の品詞分解とか、現代語に訳せとか、そういう低レベルの試験問題は出さない。文化の本質と、その理解について、問う設問にする。

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けない。質問等は電子メールで受け付ける。

【学生へのメッセージ】

四年生の出席率が、非常に悪い。就職関係でほとんど出席せずに（出席できずに）試験だけ受ける学生が例年多いが、まず単位取得は不可能に近い。そういう「行き当たりばったり」の態度を改めるためにも、日本文化のエッセンスに触れて欲しい。

電気通信大学 平成18年度シラバス

【その他】